

景況調査

報告書 NO. 78

平成30年 1月～3月 実績
平成30年 4月～6月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成29年度第4四半期(H30. 1～3月)景況調査

1. 調査時点 平成30年3月15日～30日

2. 調査対象

(1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 114[107企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	54 (3)	9 (2)	16 (1)	15	11 (1)	9	114 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比で△18.4、前期実績(10～12月△5.4)に比較すると13.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前年同期比では△12.3、前期実績(10～12月△4.4)と比較すると7.9ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△12.3ポイント、前期実績(10～12月12.5)と比較すると24.8ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△15.0、前期実績(10～12月△9.8)と比較すると5.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H30.1～3月)見通し**については△13.1、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △18.4)と比較すると5.3ポイントの上昇であるが、水面下の状況であった。

「**製造業**」のうち食料品は、年末の需要期を過ぎた閑散期で業況は下降。織物は、多重織りガーゼ素材は受注安定も、ジャカードは深刻な状況。漁網・ロープは生産・販売(数量・金額)ともに1月は前年を上回るも、2月以降減少に転じた。鉄工のうち**工作機械関係**の世界的な好景気が通期繁忙。国内・海外とも増加し、過去最高の受注状況が続く。**自動車関係**はトヨタ国内日当たり生産は年度末需要もあり10～12月期から微増の1万3千台で推移。**化学**は国内向け堅調。輸出も中国向けが引き続き好調。**プラスチック**は売上は堅調に推移するが原価高騰が続き利益を圧迫。

「**建設業**」は、年度末需要で売上は増加するも、収益・総合は悪化となった。

「**卸売業**」のうち、**繊維卸**は<産業資材>景気回復局面が続くとされながら内需に力強さを欠く。<インテリア>通期では前年並みを確保。<寝装寝具>大雪等の異常気象の影響もあり、低調な動きに終始した。<アパレル>生地では春夏向けの素材に動きがみられた。商品では低価格帯は動きあるも、中・高価格帯は低調。(繊維部会)

「**小売業**」は、売上・収益は横バイとなるも消費意欲に力強さは戻らず。**石油等その他小売**はパイプライン事故の影響等で高値を付ける場面もあったが、供給回復と共に沈静化した。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は宿泊者数では国内・インバウンドとも前年並みからやや上回ったが、昨年が不調であったため楽観視できない。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**では完成車輸出は月間1万台水準と好調維持。鋼材移入・海上コンテナ貨物輸出も堅調。**旅客関係**で1～3月はシーズンオフで低調な時期。ただし前年同期比でも売上が微減となった。

設備投資状況は、32事業所(50件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は39事業所(63件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では売上の停滞・減少、利幅の縮小、人手不足、原材料(燃料)高、競争激化が項目別で上位を占めていた。

当地区において

年度末となる第4四半期は前年同期、前期比で小幅ながらほぼ全ての数値が水面下となった。業種別では、鉄工、石油等その他小売、旅客・貨物輸送・水運では好調さが見えた反面、多くの業種では横バイから悪化の状況が見られた。また、売上は増加するも収益の悪化を訴える声も多く、原材料コスト上昇や人手不足も含めた人件費の高騰を訴える声も目立つ。地方における個人消費がの停滞感が長引く状況で、本所では平成29年度以降の新アクションプランの実行を通じて、地域経済の持続的発展を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

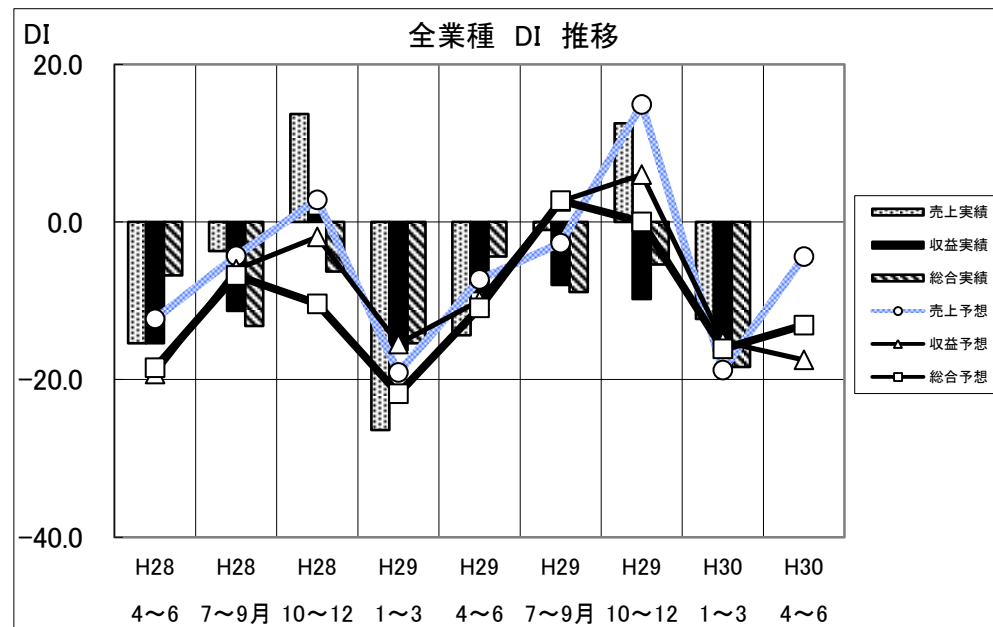
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-0.9	-12.3	-4.4	H29. 1～3月実績	-9.1	-26.4	-9.1	-16.3	-13.7	-15.4	-10.9
②製品・商品在庫	-4.4	-2.7	-4.4	H29. 4～6月実績	-8.0	-14.4	-1.8	-8.9	-2.7	-4.4	2.7
③資金繰り	-3.5	-4.4	-7.9	H29. 7～9月実績	0.0	-1.0	-8.9	-8.0	-2.0	-8.9	0.0
④採算(収益)	-16.7	-15.0	-17.5	H29. 10～12月実績	-2.7	12.5	-13.4	-9.8	-4.4	-5.4	-16.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	4.4	0.0	10.5	H30. 1～3月実績	-0.9	-12.3	-16.7	-15.0	-12.3	-18.4	-13.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.3	-18.4	-13.1								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H29.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月見通し
売上	-15.4	-3.7	13.7	-26.4	-14.4	-1.0	12.5	-12.3	-4.4
収益	-15.4	-11.3	0.9	-16.3	-8.9	-8.0	-9.8	-15.0	-17.5
総合	-6.8	-13.2	-6.3	-15.4	-4.4	-8.9	-5.4	-18.4	-13.1

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)

製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)

資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)

従業員数 :DI=(増加)-(減少)

業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は△9.2、前期実績(10～12月期 33.9)に比して43.1ポイントの下降、収益DI値は△16.7、前期実績(10～12月期(0.0)に比して16.7ポイントの下降、総合判断DI値は△16.6、前期実績(10～12月期(3.6)に比して20.2ポイントの上昇と、総合・売上・収益ともに下降となった。

向こう3カ月の見通し 売上は上昇するも、収益・総合は下降の見通しとなっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-1.8	-9.2	7.4
②製品・商品在庫	3.7	3.7	3.7
③資金繰り	-7.4	-9.2	-7.4
④採算(収益)	-18.5	-16.7	-7.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	18.5	13.0	20.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-5.6	-16.6	-11.1

[食料品]

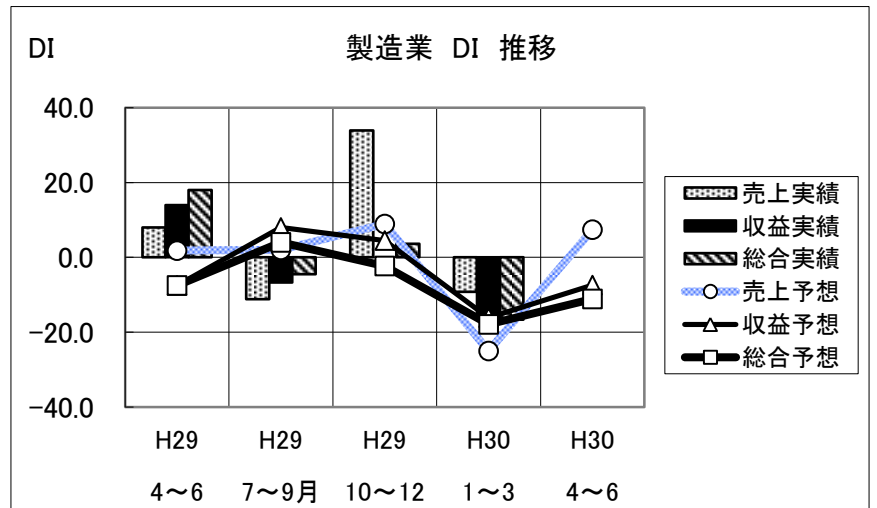
売上は前期比DI値は△100%と下降、前年同期比ではDI値△25.0%と下降。収益では、前期比DI値で△50.0%と下降、前年同期比では△25.0%と下降。総合判断では前期比DI値は△50.0%と下降、前年同期比はDI値△25.0%と、年末の需要期を過ぎた閑散期で業況は下降となっている。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値25.0%、収益DI値0.0%、総合判断DI値25.0%と当期に比べて業況は改善する見通しである。いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。愛知県産小麦や三河湾産アサリ、東三河の農産物など地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業が見られ、今後も地域性を売りにした商品開発の動きが期待

(食料品)

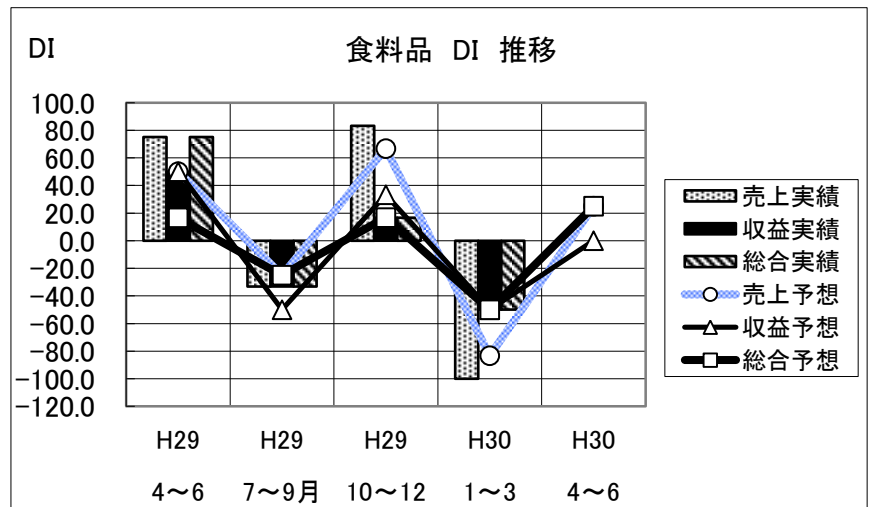
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-100.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-25.0	-50.0	0.0
④採算(収益)	-25.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	-50.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-50.0	25.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	8.0	-11.2	33.9	-9.2	7.4
収益	14.0	-6.7	0.0	-16.7	-7.4
総合	18.0	-4.5	3.6	-16.6	-11.1



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	75.0	-33.3	83.3	-100.0	25.0
収益	50.0	-33.3	16.7	-50.0	0.0
総合	75.0	-33.3	16.7	-50.0	25.0

[織物]

寝装関係は、多重織りガーゼは安定した受注がある。インテリア向けジャカードカーテンは、深刻な状況が続いており、産業資材も苦戦している状況。

向こう3カ月の見通し

多重織りガーゼについては継続した受注が見込まれる。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-75.0	-50.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-75.0	-75.0

[漁網・ロープ]

1月期は販売・数量・金額とも前年同月比を15%程度超えたが、2月以降は減少に転じた。販売・数量は対前年比で3割程度の減少と厳しい。

向こう3カ月の見通し

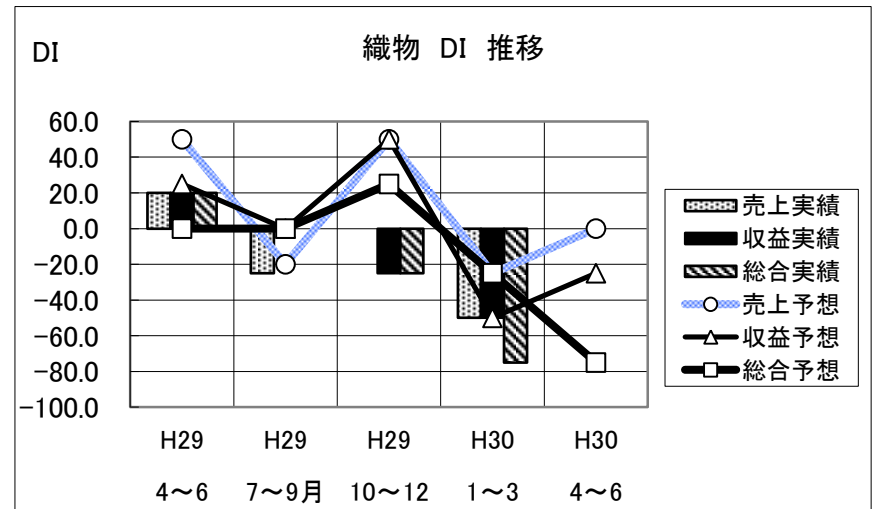
例年、春先は需要が出て動きがあるが、現在のところ先行きは不透明である。

(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

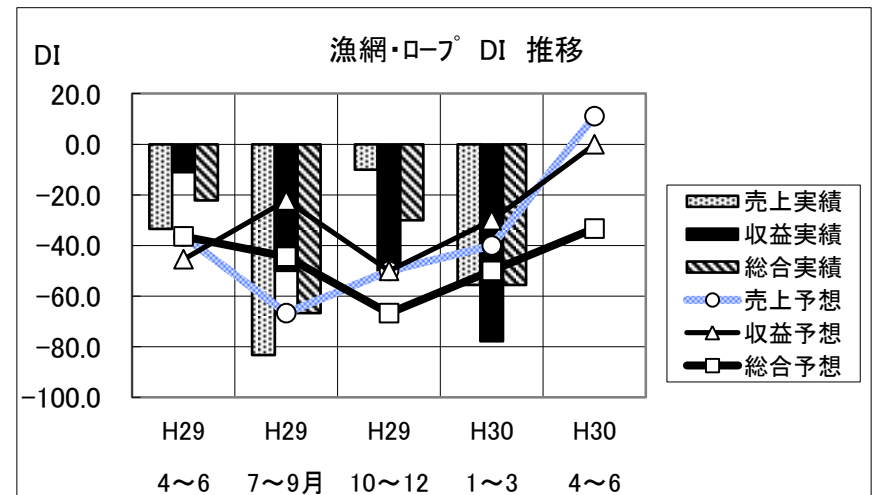
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-55.6	11.1
②製品・商品在庫	-22.2	-11.1	11.1
③資金繰り	-33.3	-33.3	0.0
④採算(収益)	-77.8	-77.8	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-66.7	-55.6	-33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	20.0	-25.0	0.0	-50.0	0.0
収益	20.0	0.0	-25.0	-50.0	-25.0
総合	20.0	0.0	-25.0	-75.0	-75.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	-33.4	-83.3	-10.0	-55.6	11.1
収益	-11.1	-50.0	-50.0	-77.8	0.0
総合	-22.2	-66.7	-30.0	-55.6	-33.3

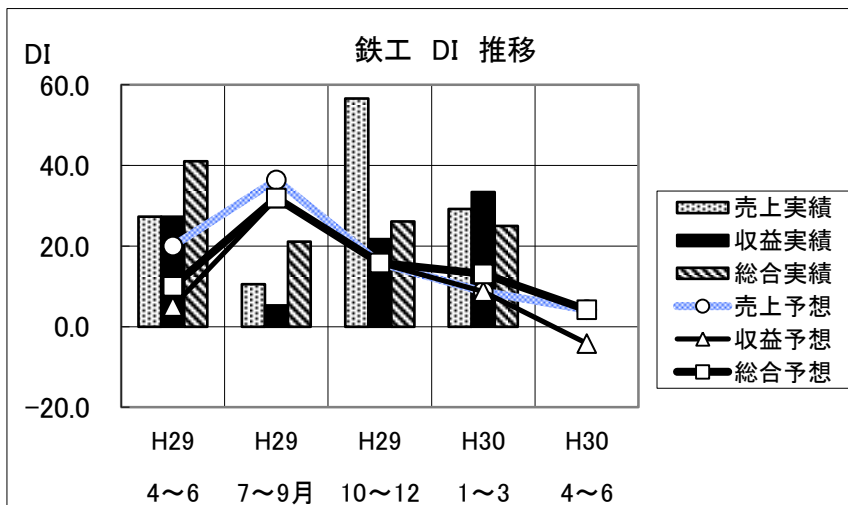
[鉄工]

<工作機械関係> 日本工作機械工業会の受注統計(内需)では、1月1,543億円、2月1,551億円、3月は1,828億円と前年同期比でも好調。内需・外需ともに前年比3~4割程度の増加。向こう3カ月の見通し 世界的な同時好況が続けば過去最高の推移を見込む、米中経済摩擦などの地政学リスクを懸念。

<自動車部品関係> トヨタの国内日当たり生産は、10~12月期に比べて微増し1万3千台前後で推移した。引き続き好調を維持するミニバン・HV車に、海外向けも堅調なSUVの生産が寄与した。向こう3カ月の見通し 年度末商戦の反動で日当たり1万2千台強の推移が予測されている。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月~3月 に比べて	前期比 平成29年10月~12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	45.9	29.2	4.2
②製品・商品在庫	20.8	12.5	4.2
③資金繰り	12.5	8.3	-4.1
④採算(収益)	20.8	33.4	-4.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.4	25.0	33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	25.0	4.2



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	27.3	10.5	56.6	29.2	4.2
収益	27.3	5.3	21.7	33.4	-4.2
総合	41.0	21.1	26.1	25.0	4.2

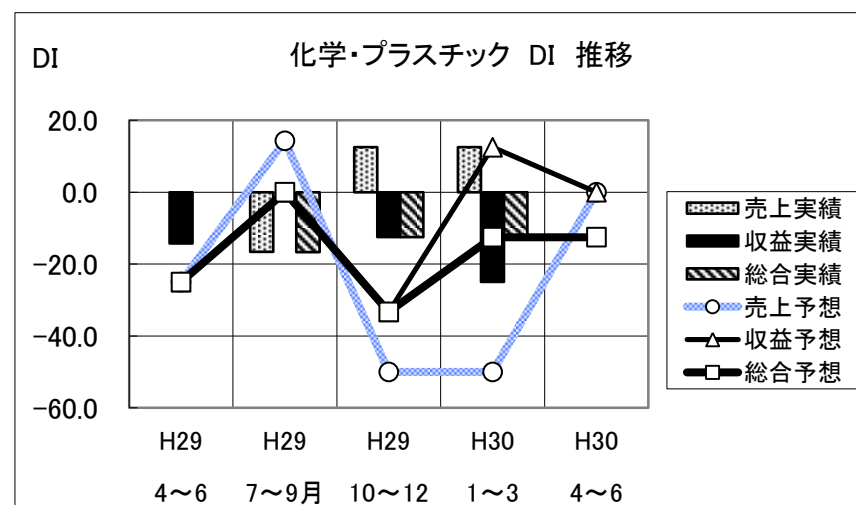
[化学・プラスチック]

<化学工業> 国内向けは堅調。輸出は中国向けが引き続き好調。向こう3カ月の見通し 今期と同傾向の見込みである。

<プラスチック> 売上は堅調に推移するものの原料や動力費等の原価が高騰し採算が悪化している。向こう3カ月の見通し 引き続き原料値上げが続く、利益が圧迫される見込みである。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月~3月 に比べて	前期比 平成29年10月~12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	12.5	0.0
②製品・商品在庫	-12.5	0.0	12.5
③資金繰り	-12.5	0.0	-12.5
④採算(収益)	0.0	-25.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	12.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-12.5	-12.5



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	0.0	-16.6	12.5	12.5	0.0
収益	-14.3	0.0	-12.5	-25.0	0.0
総合	0.0	-16.7	-12.5	-12.5	-12.5

建設業

売上DI値は11.1、前期実績10～12月期(△10.0)に比して21.1ポイントの上昇、収益DI値は△44.4、前期実績10～12月期(△10.0)に比して34.4ポイントの下降、総合判断DI値は△33.3、前期実績10～12月期(△10.0)に比して23.3ポイントの下降。年度末需要もあり売上は上昇したが、収益・総合では下降となった。

向こう3カ月の見通し 年度末の需要期を過ぎて売上・収益・総合ともに厳しい見通しである。
(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	11.1	-77.8
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	-44.4	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-22.2	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-55.6

卸売業

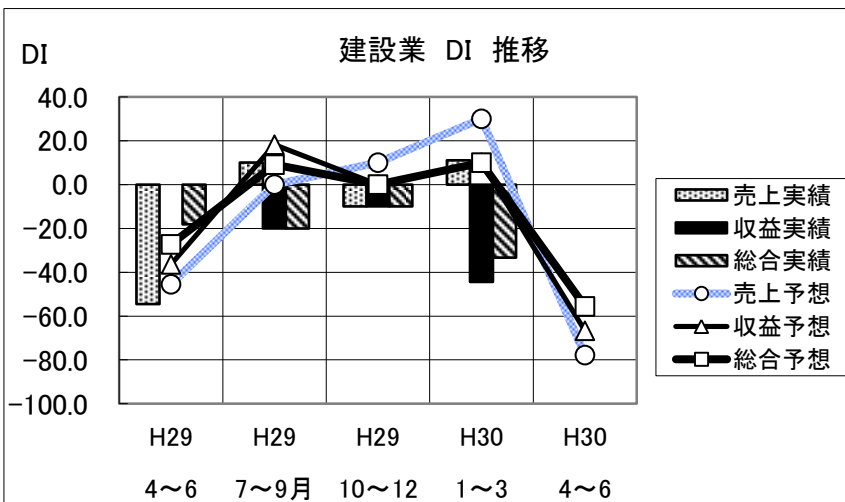
売上DI値は△56.2、前期実績10～12月期(△16.6)に比して39.6ポイントの下降。収益DI値は△31.3、前期実績10～12月期(△33.3)に比して2.0ポイントの上昇、総合判断DI値は△43.8、前期実績10～12月期(△11.1)に比して32.7ポイントの下降。売上・収益・総合ともに水面下の厳しい状況であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益は下降。総合は横バイの見込みである。

卸売業

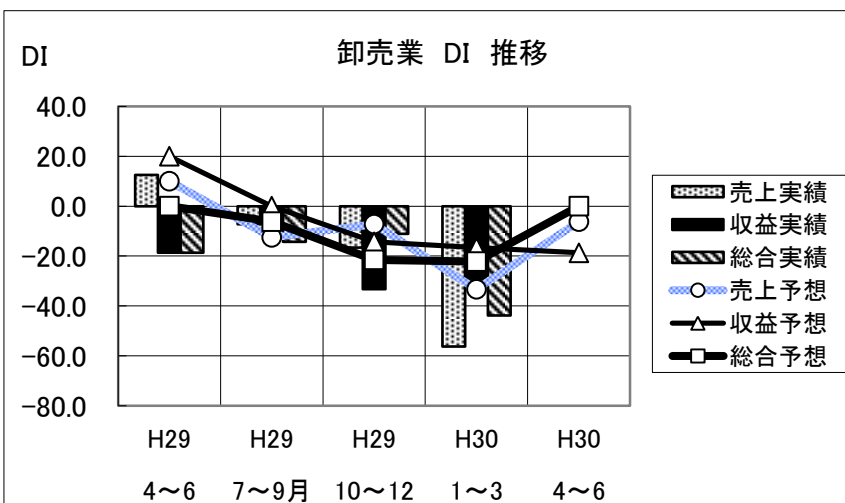
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	-56.2	-6.2
②製品・商品在庫	-31.3	-18.7	-25.0
③資金繰り	0.0	-6.3	-12.5
④採算(収益)	-18.7	-31.3	-18.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-18.8	-6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-31.2	-43.8	0.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	-54.5	10.0	-10.0	11.1	-77.8
収益	0.0	-20.0	-10.0	-44.4	-66.7
総合	-18.2	-20.0	-10.0	-33.3	-55.6



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	12.5	-7.2	-16.6	-56.2	-6.2
収益	-18.7	-7.2	-33.3	-31.3	-18.7
総合	-18.7	-14.3	-11.1	-43.8	0.0

【繊維卸】

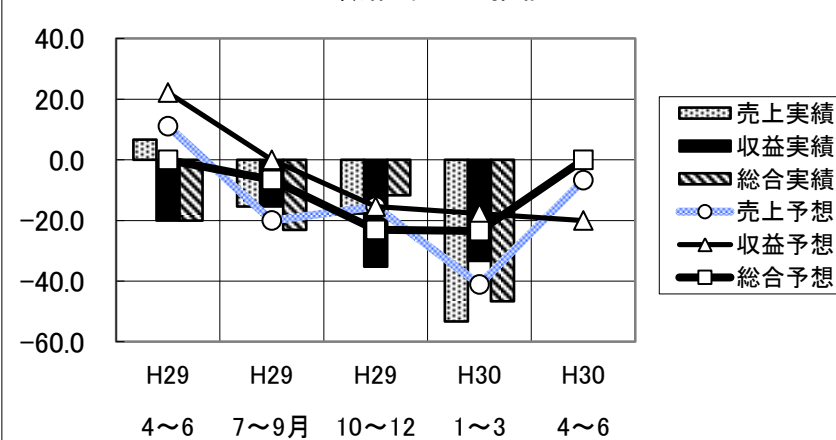
<産業資材>輸出好調で国内景況感も改善するなか、国内消費の勢いは弱く内需に力強さを欠く。賃上げも家計への恩恵は実感が得られない。向こう3カ月の見通し 景気低迷で春夏商戦の活気も乏しく、米国の輸入規制の影響もあり不透明な状況。<インテリア>1~2月は前年並み。冬物も2月末に処分が進み、3月の春夏物導入もスムーズ。小売店も大半は昨年より厳しいが、3月に入り気温上昇と共に徐々に受注が回復。向こう3カ月の見通し 4月からGW明けまで新柄の初回導入で受注は確保。5月中旬以降は落ち着きを見せ、概ね例年並み。<寝装寝具>例年この時期は閑散期だが2月は大雪等の異常気象で悪く昨年実績をクリアできず厳しい状況。向こう3カ月の見通し 3月後半より夏素材出荷。冷感素材も例年より早く導入され前半は期待できるが、6月以降は天候に左右され不透明。<アパレル>生地ではプリント、先染めは引き続き低調。麻関係に動きがあり原材料が高騰傾向。レーヨン麻、綿麻も平織・ドビーとも動きあり。レース、カラム織も前倒しオーダーあり。製品では春物低価格に動きあるも、中価格帯の綿シャツ・ブラウスは減少。向こう3カ月の見通し 生地では麻関係は原材料高騰続き生産調整で品薄状態が続引き合いあり。細番手の高密度織物、刺し子、カラム織も期待できるが売上への貢献は少ない。製品では夏物初期導入で動きは活発。表面に変化のある綿・カラム織素材に人気。(繊維部会)

【繊維卸】

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月~3月 に比べて	前期比 平成29年10月~12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-53.3	-6.7
②製品・商品在庫	-26.7	-20.0	-26.6
③資金繰り	0.0	-6.7	-13.3
④採算(収益)	-20.0	-33.4	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-13.3	-13.3	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-46.7	0.0

DI 繊維卸 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	6.7	-15.4	-17.7	-53.3	-6.7
収益	-20.0	-15.4	-35.3	-33.4	-20.0
総合	-20.0	-23.1	-11.7	-46.7	0.0

小売業

売上DI値は6.6、前期実績10~12月期(△20.0)に比して26.6ポイントの上昇。収益DI値は20.0、前期実績10~12月期(△30.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績10~12月期(△40.0)に比して40.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに上昇傾向が見られた。

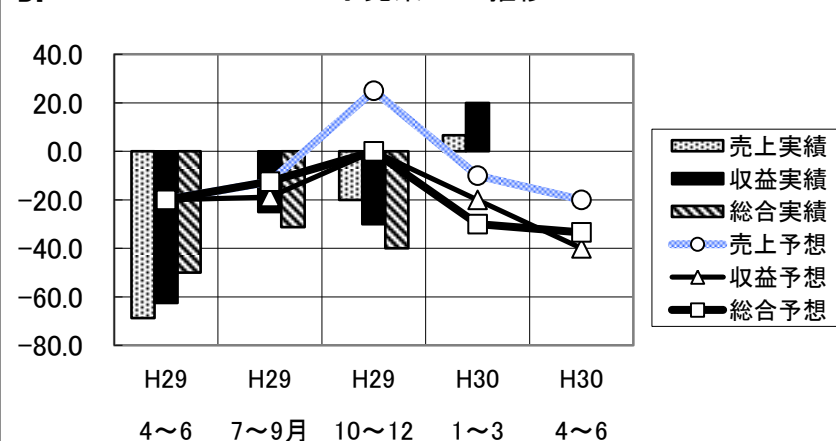
向こう3カ月の見通し 消費意欲の停滞が続くなか、消費意欲の回復による給与の増額に伴う消費拡大を期待。天候不順による生鮮食品等の値動きが懸念材料。7月から始まる「プレミアム付き商品券(蒲郡GOGO商品券)」による消費拡大に期待したい。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月~3月 に比べて	前期比 平成29年10月~12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	6.6	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-13.3	-20.0
③資金繰り	0.0	6.7	-13.3
④採算(収益)	-13.4	20.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.7	0.0	-13.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-13.3	0.0	-33.4

DI 小売業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	-68.8	0.0	-20.0	6.6	-20.0
収益	-62.5	-25.0	-30.0	20.0	-40.0
総合	-50.0	-31.3	-40.0	0.0	-33.4

[飲食]

全体的には大きな変化なく前年並み。お昼に比べて夜が少なく、夜は予約客がメイン。忘新年会は例年並みの結果。小グループ化が進んでいるが、地元飲食店をご利用いただけて大変ありがたい。向こう3カ月の見通し 全体的にはあまり大きな変化はない見込みで、例年並みの利用を期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	0.0	-33.4
②製品・商品在庫	-33.3	0.0	-33.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-66.7	0.0	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.4	0.0	-33.4

[石油等その他小売]

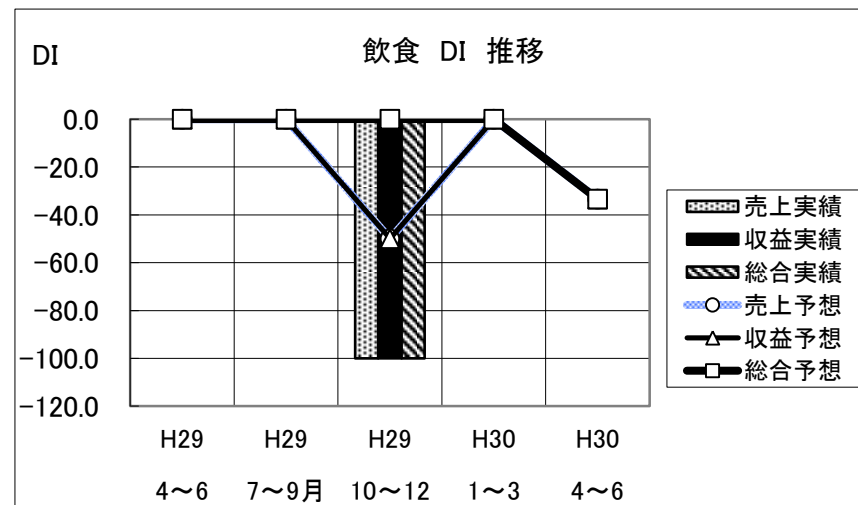
世界経済の回復により、2017年は3年ぶりに需要超過に転じた年であった。1～3月の原油価格動向を見ると、北海油田やリビアのパイプライン事故、イランの地政学リスクもあって、1月には一時66ドル台と3年ぶりの高値をつけた。2月に入り足元の動きはやや沈静化している。

向こう3カ月の見通し 2018年の需給バランスは2017年同様の需給均衡からやや供給過剰気味で推移する見込み。地政学リスクへの懸念は続くが、生産拡大による供給過剰懸念が払拭されず上値は抑えられる事から、2018年のWTIは上値が重く60～62ドル台の推となる見込み。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

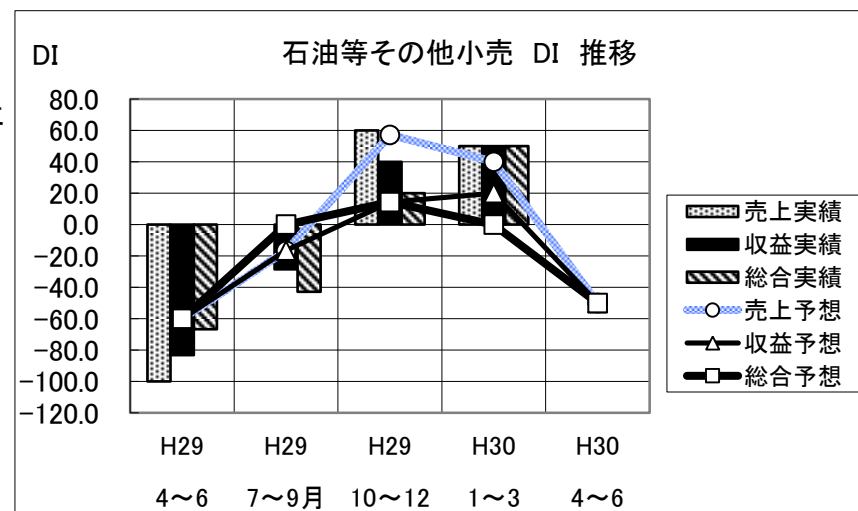
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	50.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	16.7	-16.7
④採算(収益)	0.0	50.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	50.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	0.0	0.0	-100.0	0.0	-33.4
収益	0.0	0.0	-100.0	0.0	-33.4
総合	0.0	0.0	-100.0	0.0	-33.4



<業況判断DIの推移>

	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	-100.0	0.0	60.0	50.0	-50.0
収益	-83.3	-28.6	40.0	50.0	-50.0
総合	-66.7	-42.9	20.0	50.0	-50.0

サービス業

売上DI値は△27.2、前期実績10～12月期(△9.1)に比して18.1ポイントの下降、収益DI値は△27.3、前期実績10～12期(△9.1)に比して18.2ポイントの下降、総合判断DI値は△9.1、前期実績10～12月期(△9.1)に比して横バイと、売上・収益は下降。総合は横バイの結果となった。

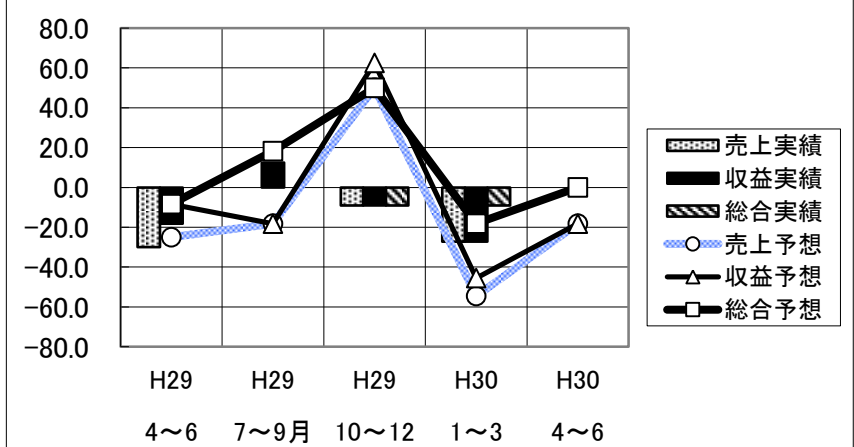
向こう3カ月の見通し 売上・収益は下降。総合は横バイの見通しとなっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	-9.1	-27.2	-18.2
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-9.1	-9.1	-9.1
④採算(収益)	-9.1	-27.3	-18.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-36.4	-27.3	9.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-9.1	-9.1	0.0

サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	-30.0	0.0	-9.1	-27.2	-18.2
収益	-18.2	12.5	-9.1	-27.3	-18.2
総合	0.0	0.0	-9.1	-9.1	0.0

[旅館]

宿泊者数では国内・インバウンドとも前年並みからやや上回ったが、昨年が不調であったため楽観視できない。宿泊は伴わないまでも3・4月は歓送迎会利用に期待している。インバウンドのうち中国の春節は前年並み。訪日客自体は増えているものの、まだ都市部集中で地方への誘客が必要である。ファミリー層は地方の温泉地利用も多いので、選んでいただける宿泊地にしていきたい。向こう3カ月の見通し

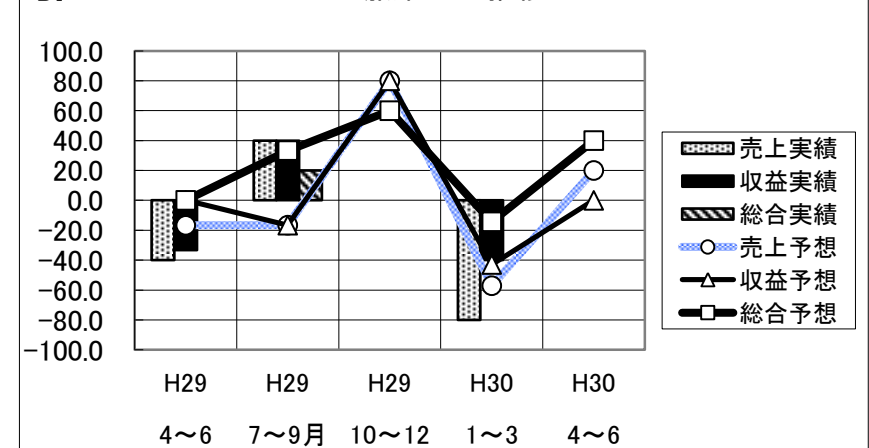
GWは繁忙ながら例年その前後は厳しい。「森、道、市場2018」や「形原温泉あじさい祭」などの大型イベントも増えて来るので、宿泊に繋げていきたい。秋から始まる愛知デスティネーションキャンペーンはじめ、蒲郡港へのクルーズ船誘致、みかわdeオンパクなども活用を一層進めていながら、地魚の成分調査など、食の魅力も磨き上げて「健康プログラム」の造成も進めていきたい。(観光)

(観光)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-80.0	20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-20.0	20.0
④採算(収益)	40.0	-40.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-60.0	-40.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	40.0

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	H30.1~3月	4~6月
売上	-40.0	40.0	0.0	-80.0	20.0
収益	-33.3	40.0	0.0	-40.0	0.0
総合	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0

運輸通信業

売上DI値は11.1、前期実績10～12月期(28.5)に比して17.4ポイントの下降、収益DI値は11.1、前期実績10～12月期(0.0)に比して11.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績10～12月期(0.0)に対して11.1ポイントの下降と、売上・収益は堅調であるが、総合は下降となった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも上昇の見通しである。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	33.4	11.1	44.5
②製品・商品在庫	11.1	0.0	0.0
③資金繰り	11.1	11.1	0.0
④採算(収益)	0.0	11.1	11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-11.1	11.1

[旅客・貨物輸送・水運]

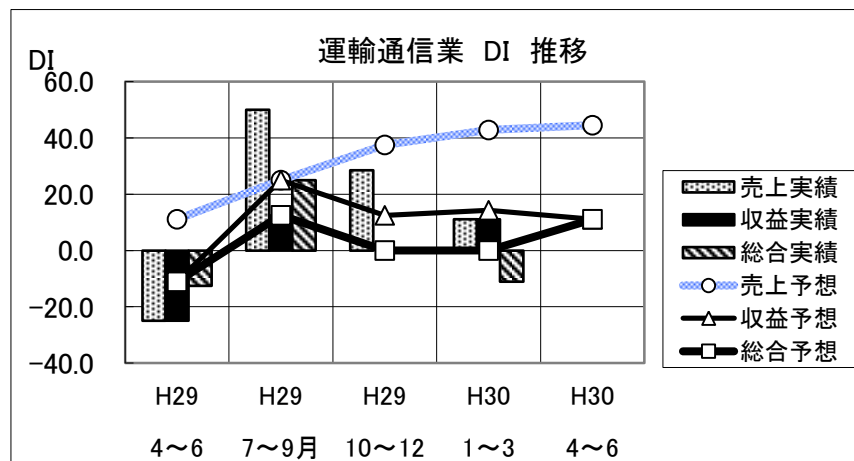
＜旅客＞ 旅行業界の1～3月はシーズンオフで、春秋に比較して低調な時期。ただし前年同期比でも売上が微減となった。向こう3カ月の見通し 春の行楽シーズンに入り売上拡大に期待。貸切バスの受注状況も改善している。

＜貨物輸送＞ 完成車の北米向け輸出はいずれの月も1万台以上と好調を維持。海上コンテナ貨物輸出量も中国向けが好調で、2月の旧正月での落ち込みがあるが通期で増加傾向。鋼材移入も需要増で堅調。向こう3カ月の見通し 完成車輸出は新型車の発売もあり引き続き月間平均1万台を超える見込み。海上コンテナ貨物輸出も中国向け堅調で前期並みを見込む。鋼材移入も堅調で前期並みの見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

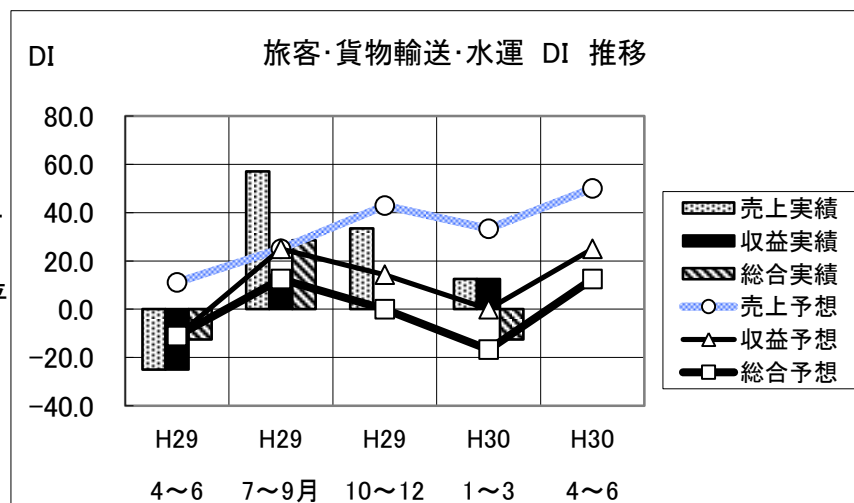
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成29年1月～3月 に比べて	前期比 平成29年10月～12月 に比べて	来期見通し 平成30年4月～6月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	12.5	50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	12.5	12.5	0.0
④採算(収益)	0.0	12.5	25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-12.5	12.5



＜業況判断DIの推移＞

	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	-25.0	50.0	28.5	11.1	44.5
収益	-25.0	12.5	0.0	11.1	11.1
総合	-12.5	25.0	0.0	-11.1	11.1

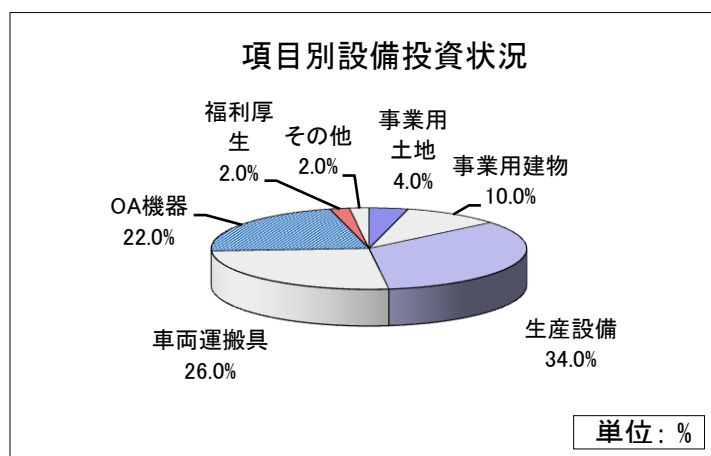
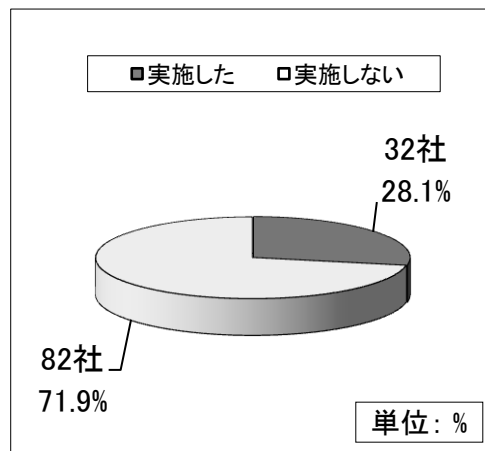


＜業況判断DIの推移＞

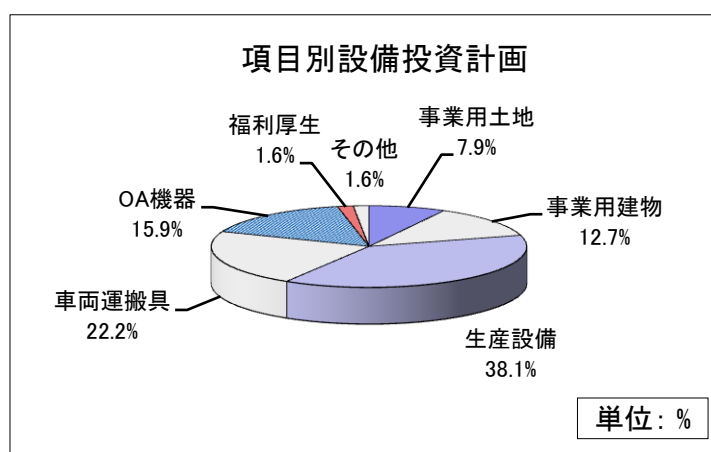
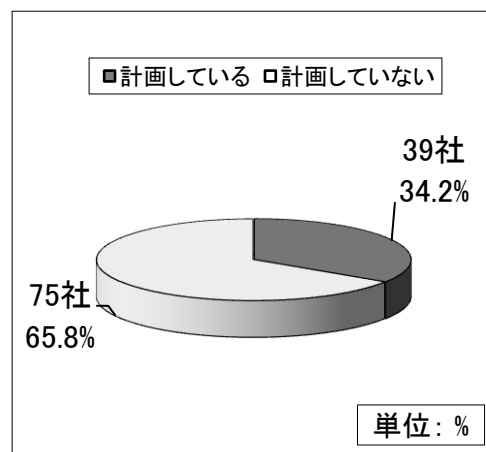
	4～6月	7～9月	10～12月	H30.1～3月	4～6月
売上	-25.0	57.1	33.4	12.5	50.0
収益	-25.0	14.3	0.0	12.5	25.0
総合	-12.5	28.6	0.0	-12.5	12.5

7. 設備投資動向

＜今期(H30.1～3月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H30.4～6月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	2	5
事業用建物	5	8
生産設備	17	24
車両運搬具	13	14
OA機器	11	10
福利厚生	1	1
その他	1	1
計	50	63

(単位:件)

◎今期(H30.1～3月)、来期(H30.4～6月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H30.1～3月)	32	20	0	0	4	5	3
2. 来期 (H30.4～6月)	39	24	2	3	2	3	5

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 114 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	57 50.0%
2	利幅の縮小	45 39.5%
3	人手不足	45 39.5%
4	原材料(燃料)高	43 37.7%
5	競争激化	21 18.4%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 54 社	原材料(燃料)高 29 社 53.7%	売上の停滞・減少 23 社 42.6%	人手不足 21 社 38.9%
建設業 9 社	利幅の縮小 7 社 77.8%	売上の停滞・減少 6 社 66.7%	人手不足 3 社 33.3%
卸売業 16 社	売上の停滞・減少 10 社 62.5%	利幅の縮小 7 社 43.8%	原材料(燃料)高 5 社 31.3%
小売業 15 社	売上の停滞・減少 8 社 53.3%	人手不足 8 社 53.3%	利幅の縮小 5 社 33.3%
サービス業 11 社	売上の停滞・減少 7 社 63.6%	利幅の縮小 7 社 63.6%	人手不足 4 社 36.4%
運輸通信業 9 社	人手不足 6 社 66.7%	原材料(燃料)高 4 社 44.4%	売上の停滞・減少 3 社 33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.78

番号	調査項目	単位	H30. 05報告	基準日	H30. 02報告	基準日	H29. 11報告	基準日	H29. 8報告	基準日	出典
1	人口	人	80,423	H30.3.1	80,532	H30.1.1	80,630	H29.10.1	80,611	H29.6.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		2,722		2,680		2,634		2,556		
2	世帯数	世帯	31,998	H30.3.1	31,942	H30.1.1	31,871	H29.10.1	31,749	H29.6.1	"
	(うち外国人)		1,306		1,284		1,264		1,202		
3	15才～65才生産人口	人	48,285	H30.3.1	48,419	H30.1.1	48,513	H29.10.1	48,500	H29.6.1	"
	(うち外国人)		2,261		2,227		2,182		2,110		
4	建築確認届出件数	件	/	/	/	/	/	/	/	/	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
5	全国完全失業率	%	2.7	H29.12月	2.8	H29.9月	2.7	H29.6月	2.8	H29.3月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	2.0	H29.10月～12月	2.3	H29.7月～9月	2.7	H29.4月～6月	2.5	H29.1月～3月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
6	全国有効求人倍率	倍	1.59	H30.3月	1.56	H29.11月	1.52	H29.8月	1.51	H29.6月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	1.19	H30.2月	1.19	H29.11月	1.04	H29.8月	1.06	H29.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比(実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.9		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	521.2		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	510.9		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	506.5		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	510.8		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	501.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	498.0		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.8		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	502.7		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	505.3		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	509.1		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,035,598	513.0		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,039,214	489.5		▲ 1.9	321.2
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 28.5	775,277	473.9		▲ 0.2	292.1
2010年度	334	5.1	0.52	18.7	819,020	480.5		▲ 0.5	322.9
2011年度	284	4.5	0.65	6.8	841,246	474.1		▲ 2.5	303.1
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 4.3	893,002	482.4		1.1	323.7
2013年度	265	4.0	0.93	7.9	987,254	489.6		1.5	343.0
2014年1月	238	3.7	1.04	22.6	77,843			1.1	29.2
(平成26年)2月	232	3.6	1.05	16.1	69,689	127.2	0.9	▲ 2.5	33.6
3月	246	3.6	1.07	1.1	69,411			7.2	48.1
4月	254	3.6	1.08	46.1	75,286			▲ 4.6	18.8
5月	242	3.5	1.09	▲ 1.4	67,791	126.7	▲ 1.8	▲ 8.0	20.6
6月	245	3.7	1.10	15.5	75,757			▲ 3.0	26.5
7月	248	3.8	1.10	8.4	72,880			▲ 5.9	28.5
8月	231	3.5	1.10	0.3	73,771	125.3	0.0	▲ 4.7	20.6
9月	233	3.6	1.09	▲ 1.2	75,882			▲ 5.6	31.5
10月	233	3.5	1.10	▲ 1.6	79,171			▲ 4.0	24.0
11月	219	3.5	1.12	▲ 5.1	78,364	134.5	0.6	▲ 2.5	23.9
12月	210	3.4	1.15	1.9	76,416			▲ 3.4	23.1
2015年1月	231	3.6	1.14	11.2	67,713			▲ 5.1	23.7
(平成27年)2月	226	3.5	1.15	16.5	67,552	131.8	1.4	▲ 3.3	28.8
3月	228	3.4	1.15	9.8	69,887			▲ 9.6	41.8
4月	234	3.3	1.17	▲ 18.7	75,617			1.4	19.8
5月	224	3.3	1.19	0.4	71,720	131.4	0.1	4.8	20.9
6月	224	3.4	1.19	0.3	88,118			▲ 2.0	27.9
7月	222	3.3	1.21	1.0	78,263			▲ 0.2	28.2
8月	225	3.4	1.23	▲ 5.8	80,255	130.3	0.1	2.9	21.1
9月	227	3.4	1.24	▲ 0.3	77,872			▲ 0.4	30.5
10月	208	3.1	1.24	12.2	77,153			▲ 2.4	24.0
11月	209	3.3	1.25	▲ 0.8	79,697	138.2	▲ 0.3	▲ 2.9	23.9
12月	204	3.3	1.27	0.3	75,452			▲ 4.4	23.9
2016年1月	211	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	213	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	133.8	0.7	1.2	27.5
3月	216	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	224	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	216	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	133.0	0.3	▲ 1.1	22.3
6月	210	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	203	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	212	3.1	1.37	0.2	82,242	131.4	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	204	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	195	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	197	3.1	1.41	24.5	85,051	140.1	0.3	▲ 1.5	27.3
12月	193	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	197	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	188	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	134.6	0.5	▲ 3.8	31.2
3月	188	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	197	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	210	3.1	1.49	8.6	78,481	134.5	0.6	▲ 0.1	23.7
6月	192	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	191	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	189	2.8	1.52	19.7	80,562	134.1	0.6	0.6	23.3
9月	190	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	181	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	178	2.7	1.56	5.8	84,703	143.1	0.4	1.7	25.8
12月	174	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	159	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	166	2.5	1.58	7.8	69,071			0.1	29.6
3月			1.59		69,616			▲ 0.2	43.8

(内閣府) (国土交通省) (内閣府) (総務省) (自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。